

【古賀市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

本市では、チルドレンファーストの政策を推進している。したがって、ICT 環境によって実現を目指す学びの姿は、当然、「はじめに子どもありき」であり児童生徒が主語になるよう、課題や要望を踏まえつつ、児童生徒の実情にマッチしたものでなければならないと考えている。児童生徒は、GIGA スクール構想第1期で、すでに文房具の一つのように、端末を使いこなしている。即ち、授業を始めとする学校生活の中に、端末が違和感なく存在し、活用されている状況である。しかし、あくまでも教師の指示で活用されている面が多いこと、タイピングなど入力速度に大きな差があることなど、全体的な課題も見えてきた。今後は、デバイスインストール型アプリだけに頼らず、汎用ツールを積極的に活用することで、児童生徒の主体性を重視した創意工夫を生かした取り組みへとシフトすることも検討したい。また、タイピング練習にも力を注ぎたい。以上の取り組みにより、社会に出てからもスムーズに ICT を活用できるスキルが身につくものと考えている。

2. GIGA 第1期の総括

第1期では、①「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善と個に応じた学習の充実」、②「児童生徒の情報活用能力の育成（情報モラルを含む）」、③「教員の指導力の向上と子どもと向き合う時間の確保」を基本方針として掲げ推進してきた。端末及びネットワークの導入が順調に進んだ結果、「学びの深化」として、教師が ICT や大型モニター等を活用して説明し、児童生徒の興味関心を高める一斉指導から、児童生徒の一人ひとりの反応を踏まえた、双方向の一斉指導が可能となってきた。「学びの転換」としては、全員が同時に同じ内容を学習する一斉学習から、児童生徒各人が同時に別々の内容を学習でき、一人ひとりの教育的ニーズや学習状況に応じた個別学習も可能になってきた。さらに、児童生徒一人ひとりがそれぞれの視点で情報を編集し、考えをその場で共有したり共同編集したりするなど協働的な学びを実現することもできた。一方、教職員のスキルアップやアップデートの重要性がクローズアップされてきたが、本市では、ICT 支援員による研修（ミニ研修を含む）や、日々の授業や校務へのきめ細やかな対応、教職員同士の同僚性を発揮した取り組みによって対応してきた。

以上のように、第1期については順調に実施することができたが、今後は、子供たちの主体性の重視、また、創意工夫を生かした取り組みへとシフトし、実社会で生きるスキルを身につけるため、教師の指示による活用やデバイスインストール型アプリを主とした利活用からシフトチェンジしていく必要があると考える。

3. 1人1台端末の利活用方策

第1期では、各家庭におけるインターネット環境の調査、児童生徒への活用状況等に関する調査を定期的に行い、アップデートを繰り返し推進してきた。第2期では、端末の積極的活用の一つとして、デジタル教科書の実践的な活用について、教員研修を行うとともに、ICT支援員の支援業務における優先事項とする。また、子供たちの主体性を重視し創意工夫を生かした取り組みへとシフトするため、教師の指示がなくても自由に利活用できる体制を整えるとともに、授業以外のあらゆる学校生活の場面で利活用できるよう情報提供をしていく。さらに、多様性を重視し、学びを保障をするため、不登校生徒への学習支援はもちろん、障がいのある児童生徒への支援や、外国籍の児童生徒の学習支援にも積極的に活用していく。

以上のように、教育DXをさらに広げ進化させるとともに、校務での利活用も一体化させて進め、全ての子供たちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びのより一層の実現を図る。